農經新聞

# 東北での作付拡大めざせ

## 山形市場で品種見本市 11社の推奨品種が一堂に

青果育種研究会

青果卸売会社と種苗会社で組織する青果育種研究会（会長＝岩澤均・東京千住青果社長）は、山形市公設地方卸売市場で「第165回品種見本市」（協力＝山形丸果中央青果）を開催した。種苗会社11社が出展し、山形をはじめ東北エリアでの認知度や作付拡大をめざす品種をそれぞれPRした。

山形県の野菜で作付面積が最も大きいのがエダマメだ。複数品種のリレーで長期出荷を行っている。

こうした中、カネコ種苗はエダマメ3品種を出品。早出し～抑制栽培まで可能な「初だるま」、中生で茶豆風味の「ゆたか娘」、茶豆風味で中晩生の「つきみ娘」を紹介した。また、雪印種苗は中早生で大莢の「青祭」をはじめ、中晩生で香りと甘みの良い「雪音」、中晩生で倒伏しにくい「青豊」を出品。渡辺採種場は黒豆の中晩生種「黒五葉」を紹介した。

一方、同県ではスイカの産出額が野菜の中でトップとなっている。スイカ、メロンの育種が専門の萩原農場は、種が極小粒でそのまま食べられるスイカ「ぷちっと」などを紹介した。

また、出展各社の出品品種の選定には、それぞれ狙いがみられた。

渡辺採種場はミニトマト「CFプチぷよ」の東北での栽培を提案。皮は「赤ちゃんのほっぺ」（同社）のように薄くサクランボのような光沢、プルンとした食感を持つ。ただ、長距離輸送に向かないことから「販売地域に近い場所で栽培を」と訴える。赤のほか、イエロー、グリーンも揃える。

東北で加工用タマネギの栽培が拡大しつつある中、サカタのタネは、大球で加工用に適するタマネギ「トタナ」を紹介。東北の春まき栽培でも「高いパフォーマンスを発揮する」という。辛味が少なくジューシーで、生食にも向く。

生産の省力化に向けた品種もみられた中、タキイ種苗では、ホルモン処理や虫の媒介による受粉がなくても安定的に着果、肥大する「単為結果性」のナス2品種を紹介。「PC鶴丸」は長卵型、「PC筑陽」はトゲのない長ナスで、ともに着果促進の時間や手間を軽減できる。

個性派品種も多く展示された。

白色粒のトウモロコシ「ロイシーコーン」を出品したのは渡辺農事。やわらかい粒は甘みが強く、来場者の関心を集めた。一方、横浜植木のブースで注目された品種のひとつが種なしピーマン「タネなっぴー」（品種名＝タネーラ）。単為結果性を持つことにより種が生じない。肉厚、ジューシーで苦みがなく、加工にも青果販売にも向く。

果菜類では、丸種が中型のカラーピーマン「パプリ娘」をPR。1個120㌘前後で使い切りしやすく、果肉が厚く食味も良い。レッド、ゴールド、オレンジがあり、セットでの生産・販売を提案する。

また、トキタ種苗は、皮が白色で、果重250～300㌘のナス「とろ～り旨なす」を出品。紫色のスティックタイプのカリフラワー「紫カリフローレ」などとともに来場者の関心を集めた。

このほか、ヴィルモランみかどは、まだ品種名のない長ネギ「MKS－N43」、ミニトマト「MKS－T837」をPR。長ネギは高温伸長性、肥大性に優れ、ミニトマトは食味が良いうえ、着果性、肥大性に優れる。ともに東北エリアでの導入に意欲を見せる。

肉厚の種なしピーマン「タネなっぴー」

渡辺採種場は、「CFプチぷよ」のほか、エダマメ、カボチャ、タマネギなども紹介（上）白色粒の「ロイシーコーン」

2023年(令和5年)9月25日(月曜日)